

令和7年度
外部評価報告書

<概要版>

令和8(2026)年3月
八戸工業大学外部評価委員会

目 次

I. 八戸工業大学外部評価の総評と提言	1
II. 個別の評価結果及び各委員からの評価とコメント	3
III. 八戸工業大学外部評価委員会の実施について	5
IV. 八戸工業大学外部評価委員会 記録	7
V. 資料一覧	10

I. 八戸工業大学外部評価の総評と提言

令和7年度八戸工業大学外部評価委員会は、令和8年2月10日(火)、八戸工業大学大会議室において開催された。

本委員会における評価にあたっては、事前に送付された資料に基づき各委員が予備評価(事前評価)を実施した。その上で、委員会当日には大学側から提示された自己点検・評価結果について説明を聴取し、教育研究活動の質保証を目的とした多角的な視点から、厳正な質疑および審議を執り行った。

外部評価委員は、事前の書面精査による評価結果と当日の協議内容を総合的に勘案し、本報告書のとおり総評および提言を取りまとめた。

以下に、本委員会の審議結果を記す。

【総評】

八戸工業大学は、地域産業を支える技術者育成という使命を堅持し、教育・研究・社会貢献の各分野において適切な自己点検・評価を実施している。特に、ディプロマ・ポリシーの可視化やPDCAサイクルに基づく授業改善の取り組みは着実な成果を上げている。卒業生に対する企業アンケートにおいて、多くの項目で他大学を上回る高い評価を得ている点は、同大学の教育力が組織的に機能している証左であり、高く評価できる。

また、3つのポリシーに基づく質保証の仕組みを確立し、厳正な入学者選抜と手厚い学修支援を両立させている姿勢も評価に値する。一方で、18歳人口の減少や深刻な理系離れといった社会的背景、さらには教学データに表れた休退学率の推移など、地方私立大学として喫緊に解決すべき課題も浮き彫りとなった。同大学には、これらの課題に対して迅速かつ戦略的に取り組むことが求められている。

【提言】

今後の持続的な発展と質の高い教育水準の維持に向け、以下の事項を提言する。

1. 教学データの多角的な分析と学生支援の高度化

休学者数そのものに大きな変動がなくとも、在籍者数の減少に伴い休学率が相対的に上昇している事実留意し、より精緻なデータ分析を行うべきである。入試形態別の入学後の成績推移を可視化するなど内部質保証の質を高めるとともに、学修面・精神面の両面から、学生一人ひとりの状況に即したきめ細かなフォローアップ体制をさらに強化されたい。

2. 次世代を見据えた「理系人材」育成へのアプローチ

地域における理系志願者の減少は極めて深刻であり、大学単独の枠を超えた地域全体の重要課題として捉える必要がある。他地域の先進的な取り組みも参考に、小中学生といった早期段階から地域の企業や技術に触れる機会を創出するなど、官民一体となった「理系への関心喚起」と将来のキャリアパスを提示する活動を主導していくことを期待する。

3. 改組に伴う将来構想の具体化と発信

令和9年度に予定されている3学部体制への改組は、グリーン・デジタルといった成長分野へ舵を切る極めて重要な転換点である。この改組の狙いや必要性、さらには地域社会への具体的な還元策について、学修成果のエビデンスと併せてステークホルダーへ積極的に発信し、入学者確保に繋がる新たなブランド価値を構築されたい。

4. 研究活動の活性化と外部資金獲得の強化

教育成果に比して研究分野の自己評価が限定的である。地域企業や行政との共同研究を加速させ、科研費等の外部資金獲得に向けた環境整備や URA の活用を推進し、研究を通じた地域貢献における大学の役割と存在感をさらに高めることが望まれる。

以上の通り、自己点検・評価活動は概ね適切に運用されており、提示された課題に対する改善努力を継続することで、より強固な教育基盤が確立されることを確信する。

令和 8 年 3 月 16 日
八戸工業大学外部評価委員会
委員長 土屋 範 芳

II. 個別の評価結果及び各委員からの評価とコメント

- A(3点)・・・適切、十分である
- B(2点)・・・部分的な改善が望まれる
- C(1点)・・・不適切、不十分であり、早急な改善が必要

令和7年度八戸工業大学自己点検・評価について

評価： 2.40 点 (各評価員の平均)

評価ポイント（改善点・要望等含む）

【全体評価・自己点検体制】

- 全体を通して概ね高く評価できる。
- 全体的な学校運営は良好に機能していると判断する。
- 従来の3つのポリシーに基づく自己点検に加え、中長期計画に基づく評価項目を導入し、大学全体を包括的に自己点検・評価する仕組みを確立した姿勢は高く評価できる。
- 継続的なFD・SDの実施、およびその改善・評価制度が構築されている点は評価できる。
- 概ね妥当な分析がなされているが、「休学者の大きな増加は見られない」という記述については、人数に大きな変化はなくとも母数が減少しているため、休学率は上昇している点に留意すべきである。→委員会当日説明、意見交換

【学修支援・教育成果】

- 学修支援担任制度やキャリア支援等のきめ細かな体制が高い進路決定率を実現している点は高く評価できる。
- 学修支援担当、キャリア担当、ゼミ担当の教職員が横断的に学生をフォローアップし、成果を出している体制は評価できる。

【地域連携・社会貢献】

- 高大連携等を通じて地域社会との連携活動を組織的に推進する仕組みを構築している姿勢を高く評価する。
- 地域に根差した(あるいは地域のステークホルダーの意向に沿った)大学の取り組みについて記載を拡充することで、より理解が深まるものとする。
- 基準7に記載された「卒業生が北東北を中心に社会の主要な人材として活躍し、大きな存在感を示している」とする具体的エビデンス(進路先等)について追加説明を求める。
→委員会当日説明、質疑応答

【研究・外部資金】

- 研究に関する自己評価の記載が限定的である。
- 有用な研究・開発を通じ、行政や地域企業等との連携をさらに深め、外部資金を獲得していくことに期待する。

【経営・将来構想(改組)】

- 基準1に記載された「令和9年度設置予定の3学部新設」の狙い、およびその狙いに至った背景について追加説明を求める。
→委員会当日説明、質疑応答
- 「1.使命・目的」の「今後の取り組み」または「特記事項」において、2027年度から導入予定の3学部3学科移行に関する必要性等の記述を検討されたい。
→委員会当日説明、回答
- 経営・管理分野の課題として掲げている「安定的な財政基盤の構築」を着実に進め、地域社会との連携を推進する仕組みを継続的に維持することが期待される。

3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動

評価： 2.60 点（各評価員の平均）

評価ポイント（改善点・要望等含む）

【自己点検・評価体制とPDCAサイクル】

- 自己点検・評価活動は、定められた方法に基づいて適正に行われている。
- PDCAサイクルを定めて運用している。
- ディプロマ・ポリシーの細分化・可視化とカリキュラム・ポリシー、シラバス作成・分析・評価等のPDCAサイクルが機能しており、学生や卒業生・企業のアンケート結果に反映されている点は評価できる。

【教育成果と企業評価】

- 「卒業生の達成度に関する企業アンケート」において、大半の項目で他大学の卒業生より優れているとの回答が得られており、優れた教育体制を構築できていると評価する。
- 企業アンケートの結果、修得因子のうち⑧「数的思考力」と⑱「生涯学習力」を除く項目で他大学生を上回る、あるいは同等以上の高い評価を得ていることが伺える。
- コミュニケーション能力の育成が記載されているが、英語力等の具体的な記述について、企業ニーズや大学の方針に基づき検討されたい。
→委員会当日説明、質疑応答
- 企業の重視度が特に高い「主体性」「チームワーク力」「日本語コミュニケーションスキル」の更なる向上に加え、グローバル化の進展を見据え、評価の低い「外国語コミュニケーションスキル」の向上に繋がる取組の強化を望む。
- 企業評価との乖離が大きい③「課題発見力」⑨「チームワーク力」⑩「リーダーシップ力」⑮「状況把握力」⑱「生涯学習力」の向上が期待される。特に⑩「リーダーシップ力」の重点化は、他の因子の向上にも寄与するものと考える。

【学生支援と教学データ分析】

- 留年率、休学率、退学率が増加傾向にあるため、教学データの整理・分析結果を踏まえた学習面・精神面両方のサポート体制の充実を望む。

【アドミッション・ポリシーと入試・学生確保】

- 多様な入試形態に即したアドミッション・ポリシーを設定し、入学基準を在校生の成績で再検証している取り組みは評価できる。
- 入学者目標 300 名に対し、令和 7 年度は 215 名と未達である状況を踏まえ、今後の具体的な対策を提示されたい。
→委員会当日説明、意見交換

【キャリア教育・地域定着】

- 令和 6 年度より開始した「あおり人材育成・県内定着促進協議会」の活動に関連し、県内トップリーダーフォーラムをカリキュラム・ポリシーに沿う形で実施した。学生アンケートでも有効な評価が得られていることから、次年度以降の開催について大学の意向を伺いたい。
→委員会当日説明、質疑応答

Ⅲ. 八戸工業大学外部評価委員会の実施について

1. 八戸工業大学外部評価委員会規程

八戸工業大学外部評価委員会規程

令和元年12月19日 制定（自己点検・評価運営委員会）

令和7年 6月19日 改定（自己点検・評価運営委員会）

（目的）

第1条 この規程は、八戸工業大学自己点検・評価取扱要綱第5条第3項に基づき、八戸工業大学外部評価委員会（以下、「委員会」という。）の組織および運営について、必要な事項を定める。

（業務）

第2条 委員会は、評価項目に関する自己点検の報告を受け、本学の教育研究水準の向上および組織ならびに運営活性化に資するための提言を行う。

（評価項目）

第3条 八戸工業大学自己点検・評価運営委員会（以下、「運営委員会」という。）は評価項目を学長に提案し、学長が決定する。

（組織の構成）

第4条 委員会委員は、学校法人八戸工業大学の役員および教職員ではない、次の各号に掲げる者から学長が選考し、委嘱する。

一 大学等の教育機関の教員

二 八戸工業大学の所在する地域の関係者

三 前各号に定める者以外に、大学に関して広くかつ高い見識を有する者

2 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員長は、委員の中から学長が指名する。

4 副委員長は、委員長が指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

6 委員会には、学校法人八戸工業大学の役員及び教職員より、点検・評価に責任を持つ専任教職員が必要に応じて陪席する。

（委員会の運営）

第5条 委員会は、学長の要請を受けたとき、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の委員会は、委員の過半数の出席がなければこれを開くことができない。

3 委員長は、議長となる。

4 委員長は、評価の結果および改善を求める提言事項を外部評価報告書にまとめ、学長に提出する。

（守秘義務）

第6条 委員は外部評価に関わる業務を遂行するにあたり知り得た事項について、これを第三者に漏洩してはならない。

（事務局）

第7条 委員会の事務は、八戸工業大学社会連携・研究推進部が行う。

（既定の改廃）

第8条 この規程の改廃は、運営委員会において、決定する。

附則

この規程は、令和元年12月19日から施行する。

この規程は、令和4年1月27日から施行する。

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

2. 委員一覧

令和8年2月10日現在

八戸工業大学外部評価委員会委員名簿

- ・委員 土屋 範芳 八戸工業高等専門学校 校長
(委員長)
- ・委員 佐々木 郁夫 八戸市 副市長
- ・委員 桃井 透 一般社団法人 青森県工業会 会長
(富士電機津軽セミコンダクタ株式会社 特別顧問)
- ・委員 相田 喜一郎 公益社団法人 日本技術士会 東北本部青森県支部 支部長
(株式会社出雲代表取締役)
- ・委員 田島 博文 青森県立八戸北高等学校 校長

(順不同)

3. 八戸工業大学外部評価委員会

令和7年度 八戸工業大学外部評価委員会

日時：令和8年2月10日(火) 13:30～15:00

会場：八戸工業大学 2号館3階 大会議室

< 次 第 >

1. 学 長 挨拶 : 八戸工業大学 学 長 船崎 健一
2. 委員長挨拶 : 八戸工業高等専門学校 校 長 土屋 範芳
3. 令和7年度八戸工業大学外部評価委員会 (議事進行：土屋 範芳)
 - 1) 令和7年度八戸工業大学自己点検・評価について (質疑含め20分)
学 長 船崎 健一
 - 2) 3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動について (質疑含め各20分)
学修成果について 学長補佐 教育・学生支援部長
金子 賢治
入学者選抜について 入試部長 高橋 晋
 - 3) その他

IV. 八戸工業大学外部評価委員会 記録

日 時	： 令和8年2月10日(火)	13:30	～	15:14
開催形式	： 対面・書面			
出席	委員 長 土屋 範 芳	八戸工業高等専門学校 校長		
	委員 桃 井 透	一般社団法人 青森県工業会 会長 (富士電機津軽セミコンダクタ株式会社特別顧問)		
	〃 相田 喜一郎	公益社団法人 日本技術士会東北本部青森県支部 支部長 (株式会社出雲代表取締役)		
	〃 田島 博文	青森県立八戸北高等学校 校長		
書面出席	委員 佐々木 郁夫	八戸市 副市長		
陪 席	学校法人八戸工業大学	武輪 俊彦	(理事長)	
	〃	白石 司	(業務執行理事)	
	八戸工業大学	船崎 健一	(学長)	
	〃	金子 賢治	(学長補佐 / 教育・学生支援部長)	
	〃	竹内 貴弘	(工学部長)	
	〃	高橋 晋	(入試部長)	
	〃	高瀬 慎介	(社会連携・研究推進部長 / 地域産業総合研究所長)	
	〃	小玉 成人	(教育・学生支援推進監 / 学生支援センター長)	
	〃	星野 保	(工学部工学科長)	
	〃	石毛 清八	(感性デザイン学部感性デザイン学部学科長)	
	〃	佐々木崇徳	(基礎教育研究センター長)	
	〃	折田 久幸	(社会連携・研究推進監)	
	〃	大室 康平	(社会連携・研究推進監)	
	〃	小林 正樹	(工学部工学科)	
	〃	吉田 忠一	(総務部 部長)	
	〃	蛭名恵利子	(教育・学生支援部 課長)	
	〃	古川 純也	(社会連携・研究推進部 課長)	
	〃	大野 和弘	(社会連携・研究推進部 参事)	
	〃	本間 貴士	(入試部)	
	〃	風張 洋佑	(総務部)	
	〃	木村 孝太	(総務部)	
	〃	赤坂友貴奈	(教育・学生支援部)	
	〃	齊藤 克治	(社会連携・研究推進部点検評価・IR 分室 / 図書館・情報事務室)	
	〃	佐藤 南	(社会連携・研究推進部)	
	〃	菅野 優子	(地域産業総合研究所)	
	〃	上野 黎香	(大学・高専機能強化支援事業職員)	
	〃	西村 恵	(社会連携・研究推進部)	

<p>当日資料 :</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 出席者名簿 3. 座席表 4. 事前評価一覧 5. 八戸工業大学 外部評価委員会規程 6. 令和7年度八戸工業大学自己点検・評価（概要版） 7. 3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動 について（一式） 8. 八戸工業大学自己点検・評価取扱要綱
<p>進 行 :</p>	<p>八戸工業大学 社会連携・研究推進部 西村 恵</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長挨拶 : 船崎 健一 	<p>学長からは、外部評価委員への謝辞に加え、自己点検の客観性確保と課題抽出の重要性が示された。外部視点による評価を真摯に受け止め、大学改革の糧とする決意が述べられた。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 2. 委員長挨拶 : 土屋 範芳 	<p>外部評価委員長からは、認証評価受審の経験を踏まえ、内部・外部評価を積み上げるPDCAサイクルの重要性が示された。多様な委員による建設的な議論を通じて、大学の改善に寄与したいとの抱負が述べられた。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 3. 令和7年度八戸工業大学外部評価委員会 議事進行 : 委員長 土屋 範芳 	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 令和7年度八戸工業大学自己点検・評価について 八戸工業大学 学長 船崎 健一 	<p>船崎学長より、令和7年度八戸工業大学自己点検・評価活動について、令和8年度の認証評価受審を見据え、包括的な自己点検を実施した旨、報告された。全7基準において判定項目を概ね満たしているものの、志願者数の維持や施設のバリアフリー化、研究資金の獲得強化といった一部の項目に課題が示された。これに対しては、令和9年度に3学部体制への改組を断行し、グリーン・デジタル等の成長分野へ注力することで、地域の期待に応える大学作りを加速させる方針が述べられた。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 2) 3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価活動 について 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学修成果 について 学長補佐 / 教育・学生支援部長 金子 賢治 	<p>金子学長補佐より、学修成果の点検に関し、教学データの詳細な分析結果が報告された。理工系私大特有の傾向を踏まえた学修習慣の定着や多角的な学生支援の充実を課題としつつ、授業評価や就職支援、DX推進等の改善状況が示された。あわせて、ICTを活用した教育の推進について、指標設定や具体的な目標数値の改訂による質保証の取り組みも説明された。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者選抜について 入試部長 高橋 晋 	<p>高橋入試部長より、八戸工業大学入学者選抜における妥当性の検証について、説明がされた。入試区分ごとの得点や高校評定、入学後のGPAの相関分析に基づき、選抜方法の妥当性を検証し、各入試の合格判定基準や推薦入試の評定下限値設定の適切さが確認されたほか、新たに導入した外部試験（数検・英検等）の得点換算も概ね適正であるとの報告がなされた。</p>

4. 委員長講評

事前資料および当日の討議内容を踏まえ、全ての基準において基準を満たしているとする八戸工業大学の内部評価結果を追認する旨が述べられた。特に教育成果については、全国の私立大学平均と比較しても高い水準にあり、学生を確実に育成する指導体制が十分に機能していることが客観的なデータからも裏付けられていると評価された。

また、入学者選抜等においても、定量的な判断基準に基づいた厳正かつ適正な運用がなされていることが確認され、大学の教育制度および質保証の仕組みが適切に構築されていると結論付けられた。

一方で、最大の懸案事項として入学志望者数の減少が挙げられた。これは社会的・地域的な課題であり、その解決に向けては八戸工業大学単独の取り組みに留まらず、教育機関や業界団体が密接に手を取り合い、官民一体となって取り組むべき喫緊の重要課題であるとの認識が示された。

以上で、議事が終了した。

V. 資料一覧

●点検・評価資料

- ・外部評価委員会評価項目について
- ・令和7年度 八戸工業大学自己点検・評価書(概要版)
- ・「3つのポリシーを踏まえた取り組みの自己点検・評価」

学修成果

【学修成果点検・評価】

令和7年度教学データの整理・分析について

0. 予備知識
1. 留年
2. 休学
3. 退学
4. 授業評価アンケートの結果
5. GPA 分布図
6. 達成度(20の修得因子)の経年変化
7. 卒業生の達成度に関する企業アンケート

入学者選抜 【入学者選抜点検・評価】

令和7年度 入試 IR 入試妥当性の検証

- ・入学試験区分ごと
- ・英語および数学外部試験受験者について

●根拠資料

- | | |
|-----------------------|---|
| 【資料1】 GPA 分布、成績評価分布 | 4年間で留年せずに卒業した学生の卒業時の累積 GPA 分布と在籍学生の成績評価分布 |
| 【資料2】 授業外学修時間 | 1週間あたりの授業外学修時間に関する経年変化 |
| 【資料3】 授業評価アンケート経年変化 | 全科目を対象に授業評価アンケートを実施した結果の経年変化 |
| 【資料4】 ICT 活用教育の推進について | |

●参考資料 (根拠となる各規程と基本計画他)

- 【参考資料1】 八戸工業大学ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー
- 【参考資料2】 八戸工業大学アセスメント・ポリシー
- 【参考資料3】 機能的な内部質保証のためのシステム・組織
- 【参考資料4】 八戸工業大学中長期目標・基本計画(HIT Grand Design 55) <概要版>
- 【補足資料】 関連用語集